

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	館山港を核とした観光交流促進プロジェクト「新たな「南房総ツーリズム」の創出～市民・NPOが主体となった「地域経営プラットフォーム」の創出～		
(2) 実施団体名	たてやま・コミュニティビジネス研究会	(3) 対象地域	千葉県館山市・鋸南町・南房総市・鴨川市
(4) 代表団体名	特定非営利活動法人たてやま・海辺のまちづくり塾	(5) 推薦団体名	千葉県館山市

(6)実施した取組の内容	取組①	地域経営プラットフォーム(コーディネート機能)の創設		
	実施主体	特定非営利活動法人たてやま・海辺のまちづくり塾		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		<p>実施内容: 中間支援組織の基本的骨格を検討するための調査を実施し、「地域経営プラットフォーム」を創設する。 実施時期: 平成20年9月～平成21年2月 取組の目的: 地域再生事業の核となる地域経営プラットフォームの確立に向けた連携協議及び調査を実施し、具体的な組織を創設することで、継続可能なビジネスモデルとしての組織基盤を確立する。</p>		<p>実施内容: 地域プラットフォーム機能の具体的検討調査の実施。地域経営プラットフォームの創設に向けた作業実施。 実施時期: 平成20年9月～平成21年2月(調査検討会議、調査実施、中核組織の創設) 取組の結果: 地域プラットフォームの基本的な組織形態・運営等について、アドバイザーなどにより調査研究が実施された。また、たてやまコミュニティビジネス研究会、観光協会体験観光部会等が中心となり、地域経営プラットフォームが創設され、今後は継続的運営を図るための法人化に向けて作業を進める。</p>
	取組②	旅行者ニーズの把握(観光マーケティング調査)		
	実施主体	特定非営利活動法人たてやま・海辺のまちづくり塾		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		<p>実施内容: 南房総地域の「宿泊及び日帰り観光客のニーズ調査」、「観光消費の推計」等及び「観光産業に関する経済波及効果調査」の実施。 実施時期: 平成20年9月～平成21年2月 取組の目的: 観光客需要と地域産業波及効果を調査し、着地型旅行等に有用な情報を獲得し、地域経営プラットフォームによる持続可能な事業への活用を図る。</p>		<p>実施内容: 「宿泊及び日帰り観光客のニーズ調査」、「観光消費の推計」等及び「観光産業に関する経済波及効果調査」を実施。 実施時期: 平成20年9月～平成21年2月 取組の結果: 2回の観光客アンケートを実施し、閑散期(11月)及び繁忙期(2月)の来訪者の観光動向を把握し分析した。また、地域経済波及効果調査(11月～2月)によりビジネスモデル構築の基礎的データを収集し、今後の地域経営戦略検討のためのデータの集積・活用を図った。</p>
	取組③	観光人材の育成「仮称:南房総観光カレッジ」の創設		
	実施主体	特定非営利活動法人グローバルキャンパス		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		<p>実施内容: 観光人材育成カリキュラムの開発、南房総観光カレッジの開設、広域的な情報交流の場づくり、着地型旅行商品の開発及び地域コーディネーターの育成 実施時期: 平成20年10月～平成21年2月 実施場所: 館山市菜の花ホール、鴨川市役所及びとみうら元気倶楽部 取組の目的: 南房総の広域連携による観光人材の育成・交流を図る「南房総観光カレッジ」を開設し、人材育成と着地型旅行商品の開発を通じた観光マネジメントの高度化による南房総の魅力向上を図る。</p>		<p>実施内容: カリキュラム検討(10回)、観光カレッジ(10回)、観光まちづくり研究会(5回)、地域コーディネーター会議(10回)の設立、着地型旅行商品の企画・実践。 実施時期: 平成20年10月～平成21年2月 実施場所: 館山市菜の花ホール、鴨川市役所及びとみうら元気倶楽部 取組の結果: 大学、NPO、行政が参加した会議で観光人材育成のためのカリキュラムを開発し、全10回の観光カレッジ講座を開催した。受講生は86名。また、観光まちづくり研究会(5回)を開催し、関係者の知識共有や交流の場を作った。カレッジ受講生有志20名が「地域コーディネーター会議」を設立し、着地型旅行商品(約40)を企画し販売した。</p>
取組④	港湾・海浜空間を核とした周遊プログラムの構築			
実施主体	特定非営利活動法人たてやま・海辺のまちづくり塾			
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果	
	<p>実施内容: 館山港を拠点としたバス周遊ツアーの開発、ウォーキングコース、レンタサイクルシステムの構築、旅客船会社と連携したモニター実証実験の実施。 実施時期: 平成20年1月～平成21年3月 実施場所: 「みなとオアシス渚の駅たてやま」を拠点とした地域～南房総地域 取組の目的: 館山港を拠点とした周遊バスツアーやレンタサイクル利用者のニーズ・周遊動向等を調査し、港を起点とした着地型旅行商品等のビジネスモデルの創出を図る。</p>		<p>実施内容: 「食彩の旅」モニターバスツアーの実施、ツアー参加者等のモニター実証実験の実施、館山港を拠点としたウォーキングコース、レンタサイクルシステムの実証実験の実施。 実施時期: 平成20年1月～平成21年3月 実施場所: 「みなとオアシス渚の駅たてやま」を拠点とした地域～南房総地域 取組の結果: 館山港を起点としたモニターバスツアー(12回、延べ定員240名)の実施、ツアー参加者等のモニター調査の実施、館山港を拠点としたレンタサイクルの実証実験の実施により、みなとを拠点とした新たな滞在メニューの充実と新たな郷土料理の開発等の波及効果が生じた。</p>	

(6)実施した取組の内容	取組⑤	顧客ニーズに対応した地域観光情報の一元化
	実施主体	特定非営利活動法人たてやま・海辺のまちづくり塾
(7)実施体制	実施内容、実施結果	<p>当初提案により予定していた計画</p> <p>実施内容:「みなとオアシス渚の駅たてやま」を拠点とした「街あるきガイドブック」の作成、レンタサイクル用マップの作成、レンタサイクル等利用者の周遊動向・ニーズ調査の実施、IT技術を活用した南房総の地域観光情報発信機能の拡大、学びの旅に対応した「地域学習教材」の編集。 実施時期:平成20年8月～平成21年2月 実施場所:「みなとオアシス渚の駅たてやま」を拠点とした地域 取組の目的:みなとを拠点としたエリアにおける周遊・滞在に資する情報を効果的に提供することで、みなとを活用した地方再生につなげる。</p>
		<p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>実施内容:「みなと街あるきガイドブック」、レンタサイクル用「ちやりんこマップ」の制作配布、周遊動向調査。ホームページの作成、学びの旅に対応した「地域学習教材」の編集。 実施時期:平成20年8月～平成21年2月 実施場所:「みなとオアシス渚の駅たてやま」を拠点とした地域 取組の結果:館山港を中心とした、まち歩き・郷土料理・温泉情報等を編集した地域観光ガイドブックを制作し配布した。また、港を拠点とした旅情報、レンタサイクルシステムなどのホームページを作成し一元化を図った。また、レンタサイクルやまち歩きに便利な「ちやりんこマップ」を制作し配布した。更に地域の「自然」、「環境」等を地域学習情報としてホームページ上で教材化した。</p>
(8)取組により得られた成果	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	
	<p>・地域経営プラットフォーム 下記団体が構成され、それぞれの役割を分担している。 ◆たてやま・コミュニティビジネス研究会(主担当 取組 ①、②、③、④、⑤) 地域経営プラットフォーム(元気再生事業の統括)の中核として、事業全体の企画立案・進行管理を担う。 ○NPOたてやま・海辺のまちづくり塾(観光人材育成を担当) ○NPOたてやま・海辺の鑑定団(港湾・海浜空間を核とした周遊プログラムの構築を担当) ○NPO安房文化遺産フォーラム(港湾・海浜空間を核とした周遊プログラムの構築を担当) ○NPO南房総IT推進協議会(顧客ニーズに対応した地域観光情報の一元化を担当) ◆館山市観光プロモーション室 地方の元気再生事業の事務局として、各取組みの総合管理を担う。また、広域的な連携の中核としての役割を担う。</p>	<p>取組の実施を踏まえた反省点</p> <p>・取組①地域経営プラットフォームの創設では、NPO連携組織「たてやま・コミュニティビジネス研究会」を中核に、観光協会、行政等が連携し、本事業における全体会議を開催し、各機関の専門性を活かした企画立案・協働体制を組むことができた。 ・取組②旅行者ニーズの把握では、専門的知識を有する城西国際大学教授の協力により、効果的な調査につながった。 ・取組③観光人材育成では、着地型旅行のパイオニアであるNPO法人グローバルキャンパスを中心に人材育成のノウハウを活かし「南房総観光カレッジ」が運営された。また、受講生による「地域コーディネーター会議」では、新たな着地型の開発やセールスなどが実践された。 ・取組④港湾・海浜空間を核とした周遊プログラムの構築では、これまでも各種フィールドワークを行ってきた千葉大学の協力により、また、客船やバス等の交通事業者と連携することで、あらたな着地型旅行の商品開発、プロモーション、販売・実践を行うことができた。 ・取組⑤顧客ニーズに対応した地域観光情報の一元化では、これまでも地域情報化における中核的役割を担ってきたNPO南房総IT推進協議会、歴史資源等を活用したまちづくりを実践しているNPO安房文化遺産フォーラムなどの連携により効果的なパンフレットやホームページが作られた。</p>
	○成果1→	NPO連携を中心とした地域経営プラットフォームの創設
	H19	H20(当初予定していた目標)
	まちづくりNPO(館山市4団体)の連携	広域的なNPO連携を中心としたプラットフォーム(10団体)
	H20(実際に得られた成果)	
	たてやまコミュニティビジネス研究会、まちづくりNPO(4団体)、館山市観光協会体験観光部会等が中心となり、地域経営プラットフォームが創設され、民間が中心となった広域的な中核組織としての可能性が広がった。	
	○成果2→	NPO・客船等企業との連携による館山湾を活用した交流空間の創出
	H19	H20(当初予定していた目標)
	NPOによる海辺の体験プログラム(600人/夏季)	NPOによる海辺の体験プログラム(600人/夏季)
	H20(実際に得られた成果)	
	南房総観光カレッジの成果として新たな着地型旅行商品が約40プログラム生まれ、着地型旅行の体験プログラムとして400名程度の参加が見込まれる。また、客船・バス等の交通事業者との連携による着地型旅行商品としての食彩の旅バスツアーに240名の参加が見込まれる。更にレンタサイクルの利用者、みなと街あるきへの参加者が多数見込まれる。	
	○成果3→	広域連携による人材育成カリキュラムの開発・体系的な研修会の開催
	H19	H20(当初予定していた目標)
各NPOによる人材育成研修(2～3回/年)	体系的な観光人材育成システムの開発・実施(10～20回/年)	
H20(実際に得られた成果)		
南房総観光カレッジ講座を10回、併せて観光まちづくり研究会を5回開催した。参加人数は当初想定40名を上回る、86名となり、従来にはなかった広域的な異業種連携、交流の場が見いだされた。		
○成果4→	地域ガイド・地域コーディネーター等の育成	
H19	H20(当初予定していた目標)	
地域ガイド(NPO4団体・50人)	地域ガイド等:目標値100人(30人の増加、別途、地域コーディネーターとして20人の増加)	
H20(実際に得られた成果)		
南房総観光カレッジを受講した86名のうち30名程度が地域ガイドとしての活動を準備中。また、受講生有志20名が「地域コーディネーター会議」を設置し、新たな旅行商品開発等を立案・実践した。これにより、広域的な視点でのビジネスモデルを実践するネットワークを築き上げることができた。		

	○成果5→ 南房総地域の観光入込客数: 目標値1,250万(50万人の増加)	
	H19	H20(当初予定していた目標)
	1,200万人	目標値1,250万人(50万人の増加の見込み)
	H20(実際に得られた成果) 南房総エリア(4市町)の平成19年観光入込客数は、約1,200万人を数える。平成20年度においては、本事業により実践した、港を拠点とする新たな集客システムの充実、効果的な情報発信や民間主体の広域連携による着地型旅行商品の開発・実践等による入込客の実質増加が見込まれる。	
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経営プラットフォームの創設については、基本的な組織形態・運営等についての調査研究結果に基づき、地域経営プラットフォームが創設された。今後は、組織の継続的運営などの定着に向けた法人化の取組を進めていく。また、設立を目指している法人について、「みなとオアシスたてやま渚の駅」が供用開始予定のH22.4までに、継続運営可能な組織として定着させるための強化育成に取り組み、みなとまちづくりビジネスのモデルとしての戦略を明確にする。 ・旅行者ニーズの把握については、南房総地域の観光入込客が少ない「秋」と逆に多い「初春」のデータを収集したが、それ以外のデータ、来訪者以外のデータを補足することで、総合的なマーケット分析、季節変動分析が可能となる。今後は、更に晩春・初夏等の調査を行い、総合的なデータとしてとりまとめ、分析を行う。また、来訪者以外のデータについても把握していく。 ・「南房総観光カレッジ」の創設については、総合的・一般的なカリキュラムで実施したが、現実的なビジネスモデルとして確立させるための専門的なカリキュラム(外国人観光客誘致、教育旅行誘致等)を充実させることで、現実的な実践が効果的になる。今後は、専門的なカリキュラムの開発と講座の開催、現実的なビジネスモデルとして確立させるための実践的なシステムを構築する。 ・港湾・海浜空間を核とした周遊プログラムの構築については、実証実験として「高速船ツアー」、「食彩バスツアー」、「みなとの街あるき」及び「レンタサイクル」に取り組んだが、「みなとオアシス渚の駅たてやま」を拠点とした港湾や海浜空間そのものを素材としたプログラムを開発することでより充実する。今後は、みなと周辺の海浜レクリエーションの発掘と本年度実施した周遊プログラムとの運動による、多彩な魅力を有する「滞在・周遊プログラム」を確立する。 ・顧客ニーズに対応した地域観光情報については、みなとを拠点とした地域観光情報の一元管理・活用を図ったが、今後は、「みなとオアシス渚の駅たてやま」を情報発信の拠点として発展させることで、効果的な情報発信チャンネルの確保と継続的に情報発信するためのビジネスモデル等の検討を進める。 	
(10)平成21年度以降の活動の見込み	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開 1. 社会資本整備 (1) 館山港(多目的観光棧橋)の整備 ※みなとまちづくりと観光圏との連携 (2) 渚の駅構想(交流施設)の整備 (3) 都市計画道路船形館山港線道路改良工事等 (4) 案内サインシステム(ウォーキングコース等)の設定 2. 館山港を核とした観光交流促進 (1) 大型客船等の誘致 (2) 旅客船の就航 等 (3) 当初提案になし 3. 地方の元気再生事業 (1) 地域経営プラットフォームの機能強化 (2) 観光人材育成「南房総観光カレッジ」の継続的な運用 (3) 観光圏との連携による滞在・周遊プログラムの充実 (4) 地域観光情報の一元化・観光圏との連携強化 (5) 旅行者ニーズ(観光マーケティング調査)の実施・継続 ※周年調査(春季・夏季)	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度 1. 社会資本整備 (1) 館山港(多目的観光棧橋)の整備(平成22年4月供用開始予定) ※みなとまちづくりと観光圏との連携 (2) 渚の駅構想(交流施設)の整備(平成22年4月一部供用開始予定) (3) 都市計画道路船形館山港線道路改良工事等(平成23年3月完成予定) (4) 案内サインシステム(ウォーキングコース等)の設定(平成22年3月完成予定) 2. 館山港を核とした観光交流促進 (1) 大型客船等の誘致 (2) 旅客船の就航 等 (3) みなとを中心とした観光交流ビジネスの起業支援とみなとまちづくりのビジネスモデルの創出・実践 3. 地方の元気再生事業 (1) 地域経営プラットフォームの進化 プラットフォームの基本的な組織形態を基礎に、鴨川市、南房総市及び鋸南町等、より広域的な連携も踏まえた継続運営可能な組織として定着させるための、現実的なビジネスモデルとしての立ち上げを図る。(平成22年4月供用開始予定の「みなとオアシス渚の駅たてやま」を活動拠点とする中核法人の設立と強化育成を図る。) (2) 「南房総観光カレッジ」の専門コース設置と実践システムの立ち上げ 総合的・一般的な地域コーディネートの手法を学んだ受講生等を対象にした「外国人誘致や教育旅行誘致など分野別等の専門的な能力育成のためのカリキュラム」を開発し、より現実的・具体的なビジネスモデルに対応できる人材の育成と学びの成果を実践する仕組みを確立する。 (3) みなとを拠点とした滞在・周遊プログラムの新たな取り組み みなとを拠点とした「滞在・周遊プログラム」のアンケート等の結果及び(5)で後述する総合的なデータを基にしたマーケット分析結果を踏まえ、平成22年4月供用開始予定の「みなとオアシス渚の駅たてやま」の具体的な機能等と連携する「滞在・周遊プログラム」として、湾内クルーズ、旅客船を活用した教育旅行の誘致や外国人向けのみなと周遊プログラムなど、新たな取り組み(みなと周辺の海浜レクリエーションと周遊プログラムとの運動)を実施する。 (4) 地域観光情報の一元化・観光圏との連携強化 「みなとを拠点とした滞在・周遊プログラム」や「総合的なデータを基にしたマーケット分析」等の成果を踏まえ、「みなとオアシス渚の駅たてやま」を情報発信の拠点として発展させることで、効果的な情報発信チャンネルの確保と継続的に情報発信するためのビジネスモデル等の検討を進める。 (5) ビジネスモデルの構築に必要な旅行者ニーズの把握 来訪経験者以外の調査及び晩春・初夏等の調査を新たに行い、総合的なデータとしてとりまとめ、分析を行うことで、「みなとオアシス渚の駅たてやま」を拠点とした旅行商品などを開発する上で有用な情報を獲得し、地域経営プラットフォームによるビジネスモデルの構築(旅行商品開発など)と継続可能な地方の再生事業へと活用展開する。 [活用を希望する制度: 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1500万円)]

館山港を核とした観光交流促進プロジェクト／新たな「南房総ツーリズム」の創出

～市民・NPOが主体となった「地域経営プラットフォーム」の創設～（千葉県館山市、鋸南町、南房総市、鴨川市） たてやま・コミュニティビジネス研究会

主な実施取組の内容

～南房総ツーリズムの創出～

中間支援機能

取組①：地域経営プラットフォームの創設

実施主体：NPOたてやま・海辺のまちづくり塾

実施内容・結果：

- ◆NPO連携を中核とする全体会議（事業の全体的な統括）
- ◆中間支援機能の組織形態・運営手法等の具体構想の策定
- ◆広域的な中核組織「地域コーディネーター会議」の開設

中間支援機能による地域コーディネーター



全体会議

NPO連携 ↓ 全体統括



南房総観光カレッジ

人材育成 ↓ 異業種交流



コーディネーター会議

有志20名 ↓ 広域連携

着地型旅行商品の開発
港のおもてなし機能



客船モニターツアー



レンタサイクル(実証)

旅行者ニーズ

取組②：旅行者ニーズの把握(観光マーケティング調査)

実施主体：NPOたてやま・海辺のまちづくり塾

実施内容・結果：

- ◆南房総エリアにおける来訪者ニーズ調査・経済波及効果調査
※調査時期：1期(11月・閑散期)2期(2月・繁忙期)
- ◆事業者・NPO等を対象とした事業者アンケート・ヒアリング調査

人材の育成

取組③：観光人材の育成「南房総観光カレッジ」の創設

実施主体：NPOグローバルキャンパス

実施内容・結果：

- ◆観光人材育成「南房総観光カレッジ」の開設
- ◆南房総4市町：受講生86名による着地型旅行商品の開発
- ◆受講生・有志20名による「地域コーディネーター会議」の開設

人材の育成と着地型旅行商品の開発と地域観光情報の一元化

滞在プログラム

取組④：港湾・海浜空間を核とした周遊プログラムの構築

実施主体：NPOたてやま・海辺のまちづくり塾

実施内容・結果：

- ◆3つの周遊バスコース「食彩の旅」モニターツアーの実施
- ◆港を起点としたレンタサイクルシステム実証実験の実施
- ◆みなとのおもてなし機能の創出・ビジネス化に向けた検証

地域観光情報

取組⑤：顧客ニーズに対応した地域観光情報の一元化

実施主体：NPOたてやま・海辺のまちづくり塾

実施内容・結果：

- ◆レンタサイクルシステムと連動した「まちなか散策マップ」の発行
- ◆魅力ある地域情報・地域観光ガイドブック「館山画報」の発行
- ◆南房総の観光情報・HPによる着地型旅行商品の情報発信

来訪者ニーズ調査 「南房総で楽しみたい旅行」 調査期間11月

海の幸・山の幸などの郷土料理を楽しむ旅	64.0	
温泉宿に泊まってリフレッシュする旅	58.7	
季節の花を楽しむ旅	39.9	
ドライブを楽しむ旅	39.0	
心や体を癒したり健康を増進する旅	38.8	
2～3日、ゆっくり滞在する旅	29.5	上位7位(抜粋)
ウォーキングなど、自然とのふれあいを楽しむ旅	28.1	



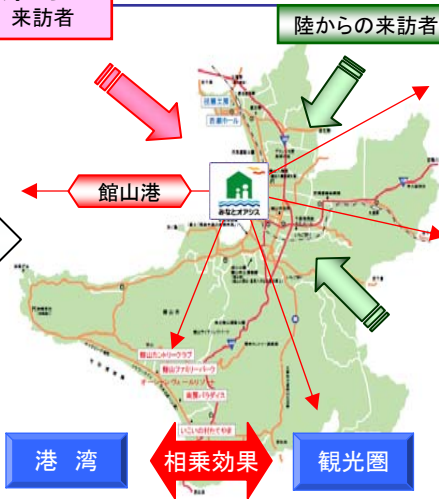
海からの来訪者



陸からの来訪者

滞在プログラム

【来訪者ニーズ】
「郷土料理を楽しむ旅」が6割で多く、「温泉」「花」「健康」「ドライブ」「自然とのふれあい」などに高い旅行ニーズ



取組実施による成果と今後の展開

【事業の成果】

本事業では、館山港「多目的観光棧橋」と「渚の駅」の供用開始を想定し、「港のおもてなし機能」の創出・ビジネス化への可能性が見出された。

また、観光人材育成を図る「南房総観光カレッジ」は、市町村の枠を超えた受講生86名による異業種交流の場としても機能し、着地型旅行商品の開発を通じた新たな広域連携・交流の礎を築き上げることができた。

【今後の展開】

- ①「地域経営プラットフォーム」の機能強化～中間支援組織の創設
- ②「南房総観光カレッジ」の本格的な運用による観光人材の育成
- ③「着地型旅行商品」の開発・実践による広域連携・集客力の向上
- ④館山港のおもてなし機能(レンタサイクル・周遊バス等)の拡充
- ⑤みなとオアシス機能の拡充・実践

